

第28回料金審査専門会合における
ご指摘事項への回答について

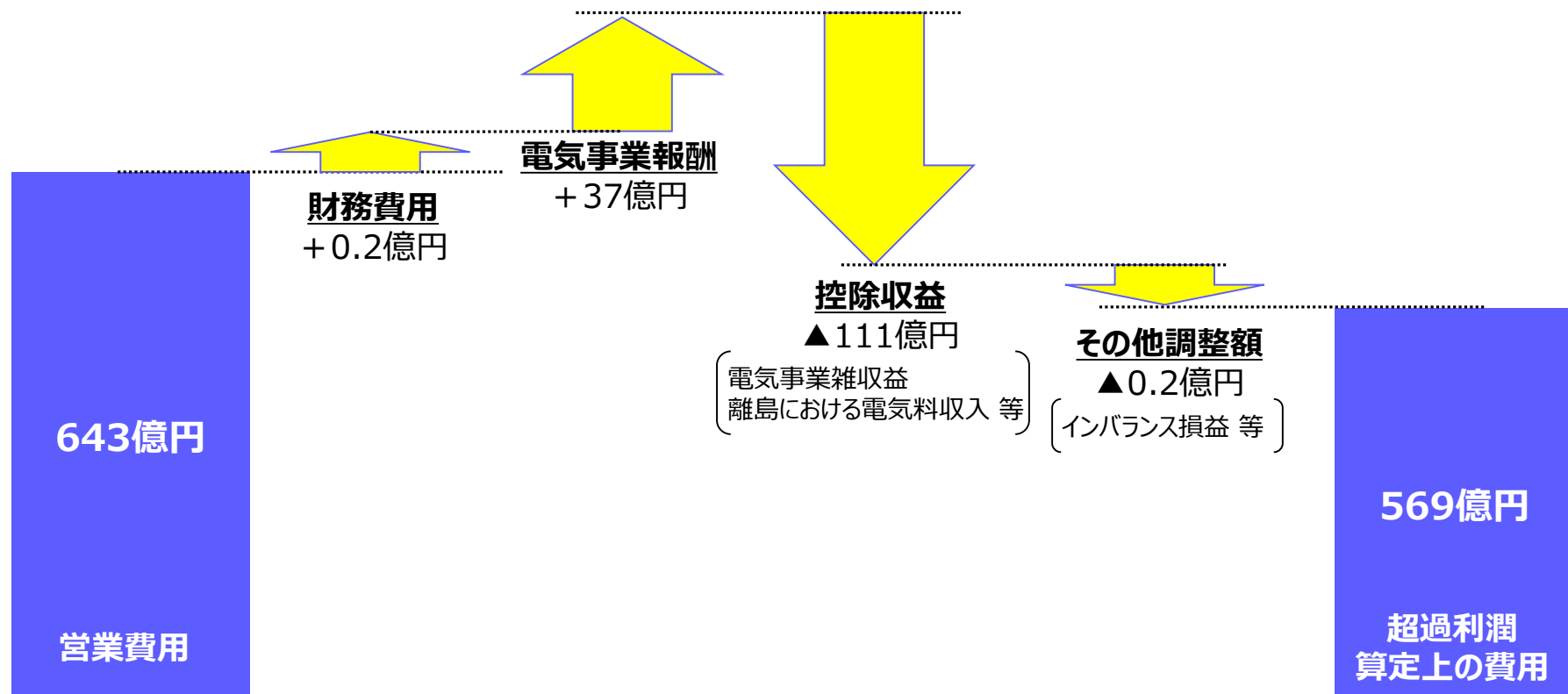
平成30年2月9日
沖縄電力株式会社

《目次》

番号	ご指摘事項の内容	ページ
1	営業収入と実績収入、営業費用と実績費用の差の理由	… P 2
9	効率化に資する代表的な各取組事例について、実施期間、年間の費用削減額の説明	… P 4
11	効率化の体制について、ワークフローとともに、どのように効率化につながるか説明	… P 5
15	将来的に金額の大きい対象物について、高経年化対策に係る設備更新計画の提示	… P 6
17	設備投資等について、計画値（送変配電別）に対する実績値の説明	… P 7
18	売上高、想定原価に占める研究開発費の割合	… P 8
19	研究開発費の対象範囲について説明	… P 8
20	競争発注比率について、目標と設定根拠	… P 9
23	競争発注比率について、送変配電別、物品・工事別の比率	… P 9
24	競争発注比率について、送変配電別の一者応札、複数応札の割合	… P 9

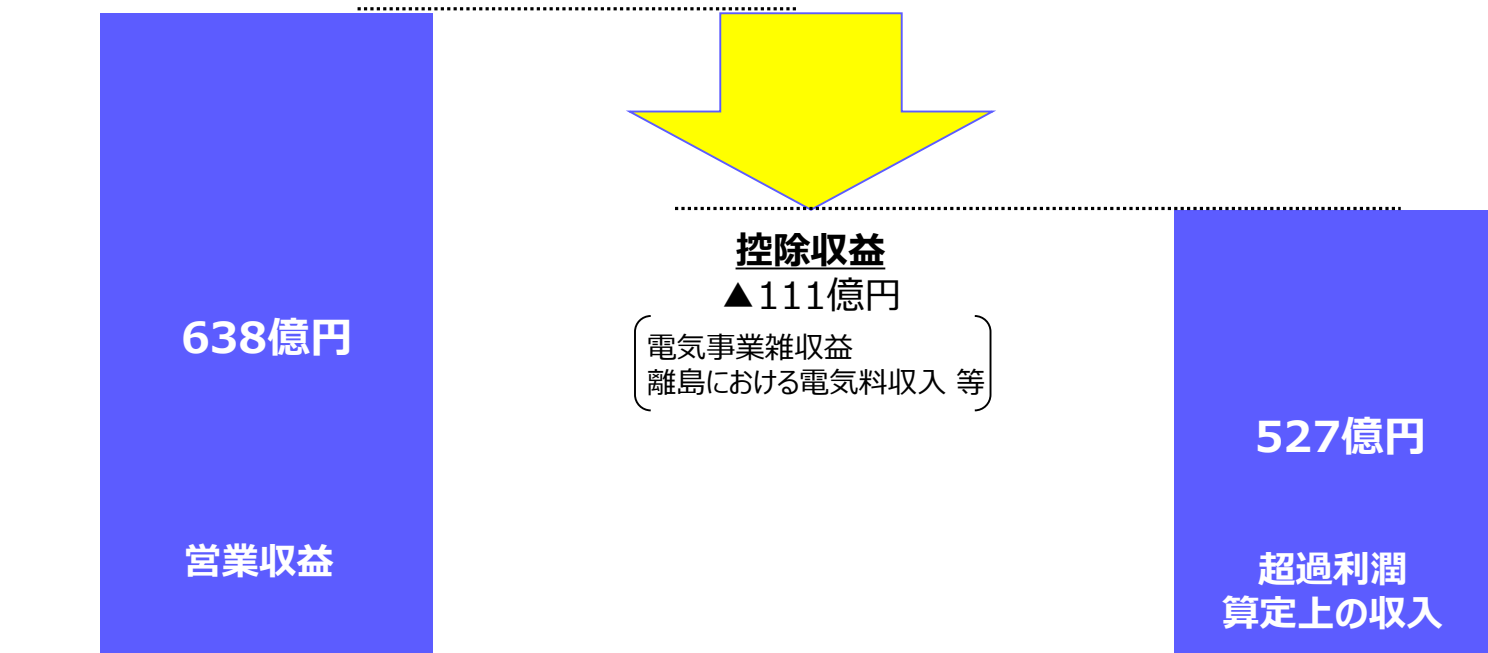
指摘事項1. 営業収入と実績収入、営業費用と実績費用の差の理由

- 託送料金原価には、営業費用のほか、電気事業雑収益などの控除収益や財務費用、事業報酬などが含まれております。
- 超過利潤算定上の実績費用569億円は、実績と原価を合わせるため、電気事業託送供給等収支計算規則（経済産業省令）に基づき、営業費用643億円から控除収益等を補正したものとなっております。
- 具体的には、財務費用0.2億円、電気事業報酬37億円、控除収益▲111億円、その他の調整額▲0.2億円を補正しております。



指摘事項1. 営業収入と実績収入、営業費用と実績費用の差の理由

- 費用と同じく、超過利潤算定上の実績収入527億円は、実績の営業収益638億円を原価に合わせて補正したものとなります。
- 具体的には、電気事業雑収益等の控除収益を補正しております。



指摘事項9. 効率化に資する代表的な各取組事例について、実施期間、年間の費用削減額の説明

▶ 以下のとおりとなっております。

		代表的な取組	実施期間	年間の費用削減額	
体制	効率化のための体制	<ul style="list-style-type: none"> 品質マネジメントシステムの構築 調達コスト低減に向けた取り組み（共同調達, リバースオークション等の利用拡大等） 	平成14年度～	－	
人件費・委託費等	人件費等の削減	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な組織運営（業務集中化、組織・事業所の統廃合等） 	－ （適宜）	－	
設備 関連費	調達の合理化	<ul style="list-style-type: none"> 発注方法の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 共同調達, リバースオークション等の実施 	平成13年度 以前～	▲4億円
		<ul style="list-style-type: none"> 仕様・設計の汎用化・標準化 	<ul style="list-style-type: none"> 72kV遮断器発注における要求仕様の見直し 	平成29年度～	－
	工事内容の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 新材料、新工法の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄塔の杭基礎に用いる「いかり材」の見直し 人孔寸法の見直し（縮小化） 	平成21年度～ 平成27年度～	▲88百万円 ▲3百万円
		<ul style="list-style-type: none"> 系統構成設備の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ケーブル接続箇所数の低減 	平成27年度～	▲12百万円
	設備保全の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 点検周期の延伸化等の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 変圧器タップ切換開閉器における点検周期延伸化 	平成26年度～	▲10百万円
		<ul style="list-style-type: none"> 取替時期の延伸等の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 高耐食メッキの導入 	平成26年度～	－

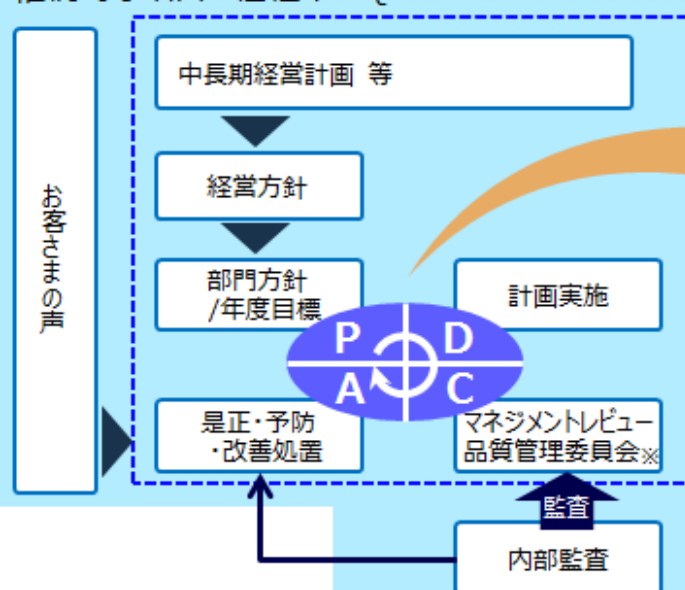
指摘事項11. 効率化の体制について、ワークフローとともに、どのように効率化につながるか説明

▶ 当社説明資料 9 ページに記載のとおりとなっております。

4. 効率化に資する取組（効率化のための体制）

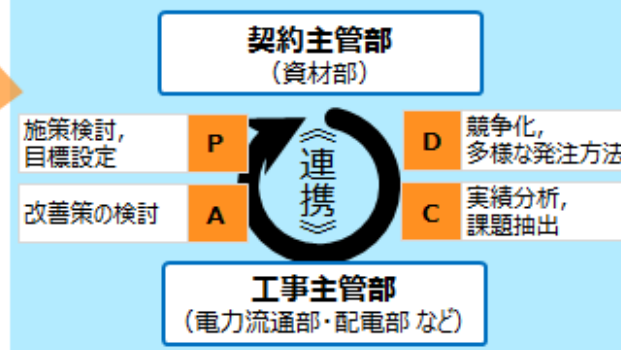
- ▶ 当社は、業務効率化の積極的な推進及びお客さま満足度向上を目的として、品質マネジメントシステム（QMS）を構築しております。この仕組みを通して、各業務プロセスをチェックし、日々の業務改善に繋げております。
- ▶ また、調達コストの低減に向けては、資材部（＝契約主管部）における部門方針の一つとして取り組んでおり、工事主管部（電力流通部・配電部 など）と相互に連携・協調することで、共同調達やリバースオークション等の利用拡大を推進しております。

「継続的な改善の仕組み：QMS」



調達コスト低減に向けた取組み

・共同調達, リバースオークション等の利用拡大 等



※マネジメントレビュー
…常勤役員によるQMSの適切性・妥当性・有効性を継続的に改善するための評価を行う会議体
※品質管理委員会
…マネジメントレビューの下部組織としてQMSに関する事項を具体的に審議する機関

指摘事項15.将来的に金額の大きい対象物について、高経年化対策に係る設備更新計画の提示

- 高経年化した設備については、至近年の点検結果や絶縁劣化診断等を考慮し、設備の状態を見極めた上で、安定供給の確保、年間の施工可能量等を考慮し、長期的な工事量の平準化を図りながら更新時期を決定いたします。

設備	設備更新の考え方
鉄塔（送電）	<ul style="list-style-type: none">・防錆塗装を実施し鉄塔部材の延命化を実施・定期点検の結果、防錆塗装での延命化が困難と判断した場合には鉄塔部材取替を実施
架空電線（送電）	<ul style="list-style-type: none">・診断箇所を絞り込んだ上でサンプル採取し劣化診断を実施、さらに追跡調査を行い、引張強度が規格値内であることを確認
地中ケーブル（送電）	<ul style="list-style-type: none">・OFケーブルについては、全線路の張替計画を策定（絶縁油中のガス分析を実施し、劣化の兆候がみられる線路を優先に張り替え）・CVケーブルについては、劣化診断を実施し更新計画の要否を判断
変圧器（変電）	<ul style="list-style-type: none">・変圧器外部の錆・漏油補修、機械的故障等の実績、変圧器内部の絶縁油のガス分析結果、経年数などを踏まえ、個別に評価し取替を計画
コンクリート柱（配電）	<ul style="list-style-type: none">・亀裂発生状態や湾曲状態等を考慮した上で個別に評価し、取替要否を判断

指摘事項17. 設備投資等について、計画値（送変配電別）に対する実績値の説明

- ▶ 平成28年度の投資計画（送電・変電・配電）および実績は、以下のとおりとなっております。
- ▶ 用地取得および工事の工期見直し、道路管理者との調整に伴う繰越等により、計画値に対し実績は34億円の減となっております。

(単位：億円)

設備区分	計画値 ①	実績値 ②	差異 ②－①
送電設備	80	56	▲24
変電設備	39	35	▲4
配電設備	67	59	▲8
計	185	151	▲34

※端数処理の関係で計算が合わない場合があります。

指摘事項18・19. 売上高、想定原価に占める研究開発費の割合、研究開発費の対象範囲

- 売上に対する研究費の割合は、H28年度で0.3%となっており、想定原価 0.1%と比較して0.2%上昇しております。

(単位：百万円)

	想定原価	H28実績
研究費 ①	81	209
売上高 ②	53,482	52,715
研究費割合 ①/②	0.1%	0.3%

※当社説明資料26ページに記載のH28年度実績額「約3千万円」は、NW直課額を記載しているため差異があります。

指摘事項20・23・24. 競争発注比率について、物品・工事別の比率、目標と設定根拠、1社応札の割合

- 平成28年度における工事/物品別の競争発注比率は、以下のとおりとなっております。
- なお、当社の競争発注比率には、結果的に1社のみが応札した案件を含めて算定しておりますが、その割合については管理しておりません。
- また、当社は、工事や物品の発注に際しては、競争発注を原則とし調達コストの低減に努めておりますが、目標値については特段設定しておりません。

平成28年度 競争発注比率

	送変電部門	配電部門	NW部門計
工事	85.7%	77.9%	83.0%
物品	83.9%	54.1%	79.1%
計	84.9%	72.3%	81.5%